

支那から

Newsletter No.45

広報委員会

(一社)日本道路建設業協会中部支部

〒460-0003

名古屋市中区錦三丁目10番14号

協和錦ビル内

TEL.052-971-5310



迎春



防災備蓄倉庫



地域防災機能を備えた「道の駅」



目次

支部長新年挨拶 01

幹事長新年挨拶 01

中部地方整備局長新年挨拶 02

道路建設技術講演会 03

舗装施工管理技術者技術講習会・アスファルト舗装技術講習会 04

技術委員会【建設技術フェア】 05

安全委員会【安全パトロール】 06

社会・環境貢献活動【AED贈呈式】 08

中部緊急防災隊【防災隊式典・班長会議】 09

防災訓練 10

アスファルト混合物事前審査制度の共通試験 11

会員だより 12

季節の写真・退会会員・編集後記 13

道路開通

■表紙写真

国土交通省「道の駅」シリーズ
国道156号

美濃にわか茶屋

路線名 国道156号

営業時間 9:00～18:00

駐車台数 小型33台、大型9台、
身障者専用2台(屋根付き)

休館日 1月1日

ここがポイント!

地域の防災拠点として防災機能を備えております。
他にも自転車貸し出しを行うサイクルステーションの設置や毎月第3日曜日にフリーマーケットを開催等のイベントも行っております。



駅長からのメッセージ

鮎の遡上する清流長良川に隣接し、緑豊かな山々がもたらす四季折々の景観美は、きっとあなたを満足させてくれます。サイクルステーションで自転車をレンタルし「うだつの上がる町並み」や「和紙の里」を訪れてみませんか。地域野菜や鮎料理、地域特産物などの品揃えも豊富です。自然と食のスローライフが満喫できます。

新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、昨年中は協会の運営にご協力いただき誠にありがとうございました。

新しい年を迎えるに当たり、一言ご挨拶させていただきます。

我々道路業界を取り巻く環境は、東日本大震災を契機に東日本と西日本では大きく異なってきております。我が中部支部は東と西の狭間に置かれ、設備投資の減少傾向が続く中ゆっくりと後退傾向にあるように思われます。会員各位のご苦勞がこの寒さと相まって身に凍みる感があります。しかしながら全く社会資本整備、民間設備投資が無くなるわけでもありませんので、その中でいかに生き残っていくのかを考え行動していかなければなりません。当協会ができることは会員の代表として「中部地整との意見交換」、「NEXCO中日本との意見交換」等を通しての入札・施工・安全パトロール・緊急支援等のあり方、各種団体との連絡・情報交換そして会員各位に対する情報提供などを継続実行していくことであると考えています。

辰年から巳年へととなり、国内外の環境が大きく変化していくものと推察しますが（12月16日の衆議院選挙前に記述）、その変化に乗り遅れることがないようにしつとく、愚直に、前を向いて今年もチャレンジして参りたいと思いますので、会員各位の叱咤激励をよろしくお願いいたします。

結びに、皆様にとってこの新しい年が実り多い年となり益々活躍されることをご祈念申し上げます。 2013年新春吉日



支部長
岩田 裕美
一般社団法人日本道路建設業協会 中部支部



新年あけましておめでとう御座います。

旧年中は日本道路建設業協会中部支部役員並びに会員の皆様には支部活動にご支援を賜り誠に有難うございました。

昨年を振り返ってみますと一番の明るい話題として、我々の道路建設業界では新東名高速道路162kmの開通が挙げられます。首都圏と中部圏を結ぶボトルネックが解消されたことは特筆されることだと思います。また、10月には明日の道路建設業界の人材確保の為、また労働環境改善の初弾として「第二土曜日を統一閉所日」が挙げられました。一朝一夕では難しいかもしれませんが、真剣に取り組むべき課題と思います。

一方、世界を見渡せば主要各国で選挙が有り、我国でも総選挙が有りました。この選挙結果がどのような変化をもたらすのか不透明な部分もありますが、今年の景気を含め、道路建設業界にも大きく影響が出る事は確実です。本年は『癸巳』の年にあたり、荒れる巳年が予想されます。何とか皆様と共に平穏な年にしていきたいものであります。

結びに当協会会員の皆様のご健勝と、会員各社のご隆盛を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。



幹事長
川端 清太
一般社団法人日本道路建設業協会 中部支部



国土交通省
中部地方整備局長
梅山 和成

新年挨拶

平成25年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

日本道路建設業協会の皆様におかれましては、平素より国土交通行政の推進に格別のご支援、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、九州北部豪雨や台風4号、17号による中部直撃、南海トラフ巨大地震の被害想定公表など、改めて大規模災害の脅威を認識させられました。他方、わが国の新たな大動脈として新東名が一気に162km開通し、防災・観光・交流など、多様な面で大きなインパクトを得ることができました。また、ぎふ清流国体・ぎふ清流大会では、参加者が約100万人に迫り、最高のおもてなしのもとで、多くの交流が生まれるなどの大成功を収めた大会となりました。

これらを踏まえ、中部地方整備局では、社会資本整備を通じて、地域の安全安心を確保するための「ディフェンス」力と地域の持続的発展を支えるための「オフense」力の充実を図るため、次の3つの柱を重点的に取り組みを展開していきたいと考えております。

一点目は、「災害に強い地域づくり」です。

差し迫る南海トラフ巨大地震や頻発する大規模水害に備えるため、公共施設の耐震化や予防的治水対策、土砂災害対策など、これまで進めてきた重要施策に加え、122機関が連携する、「東海・東南海・南海地震対策中部圏戦略会議」が策定した、「中部圏地震防災基本戦略」を推進していくこととしています。基幹的防災拠点等の配置計画、道路・港湾の啓開オペレーション計画、市町村の津波防災まちづくり推進計画に資するガイドラインなどの優先的に取り組む連携課題の具体化を図るとともに、定期的にフォローアップしていくこととしております。

二点目は、「持続可能で活力ある国土・地域づくり」です。

日本のエンジン「ものづくり中部」を持続的・発展的に支える、陸海空の社会資本整備について、叡智を結集し、戦略的に推進していく必要があります。具体的には、ミッシングリンクの解消等による信頼性の高い道路ネットワークの整備、港湾の国際化対応、公共施設の長寿命化対応、新東名やリニア中央新幹線などの大規模プロジェクトを見据えたまちづくり、再生エネルギー導入に向けた支援などを中心に、ハードとソフトを総動員し、一層の充実・強化に向けた取り組みを進めてまいります。

三点目は、「建設産業の再生と発展」です。

地域を支え得る足腰の強い建設産業の構築が必要と認識しています。また、建設分野の社会的理解度の向上は、今や、産官学の共通課題とされています。災害対応をはじめとする建設分野の任務に関する情報発信の充実・強化について、コンテンツ、ツール、タイミング等の観点から、より良い方法を選択・実行できるよう、全力をあげて取り組むこととしています。

さて、今年は、第62回神宮式年遷宮の年でございます。「式年遷宮」は、1300年の歴史を有し、20年に一度の大イベントです。このようなイベントも含め、地域の皆様とともに、中部地方を盛り上げることにお役に立てればと思っております。

いずれに致しましても、国民の皆様のお安全安心の確保と、地域の持続的発展に資する取り組みを推進していくためには、国の機関はもとより、地元自治体、経済界、学界、民間企業の皆様、とりわけ、地域を支える建設産業界の皆様との連携・協力が不可欠です。重ねて、ご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、今年の干支、「巳＝蛇」は、知恵、財産の象徴ともされております。日本道路建設業協会の皆様にとって、幸多き年でありますことを心より祈念し、年頭のご挨拶といたします。



平成24年度 道路建設技術講演会



平成24年度道路建設技術講演会を(一社)日本道路建設業協会中部支部主催、国土交通省中部地方整備局後援、(社)日本道路協会中部ブロック・(社)中部建設協会・(社)名古屋建設業協会・(社)日本建設業連合会中部支部・中部緊急防災協会の共催をいただき11月7日に名古屋東文化小劇場で開催しました。会場には会員の皆様、官公庁の方々を中心に230人がご参加いただきました。

開会にあたり、岩田支部長から、「社会資本整備に参加するという観点から、地域社会との共存を図り、未来に誇ることのできる仕事、より多くの国民に受け入れられる協会活動を推進していきたい。道路整備の重要性を再確認し、産学官が力を合わせて変革していくことが求められる。」と述べられた開会の挨拶につづき、講演会に入りました。

国立大学法人東京工業大学 柏木孝夫特命教授は「地球温暖化対策に向けた企業の戦略」を講演テーマに、産業構造やライフスタイルを一変させる「スマート革命」とは何かを解説。エネルギーをICT(情報通信技術)で管理することにより、再生可能エネルギーを合理的に活用するスマートコミュニティー社会が出現すること、また、道路インフラ整備の延長線上に地域主導のSPC(特定目的会社)構想などがあり、ビジネスチャンスが広がっ



岩田支部長



柏木孝夫特命教授



鈴木学道路調査官

ていることなどを説明されました。

国土交通省中部地方整備局 鈴木学道路調査官は「最近の道路事業について～道路の長寿命化～」を講演テーマに、道路関連予算の概要、ミッシングリンクの解消、地震津波対策、風水害対策、大都市圏環状道路の整備計画を説明したほか、道路構造物の戦略的な維持管理手法や長寿命化への取り組みを紹介されました。

参加者は熱心に講演に聞き入り、実りある講演会になりました。

舗装施工管理技術者技術講習会



日本道路建設業協会(道建協)は7月29日、平成24年度舗装施工管理技術者技術講習会を名古屋市熱田区の名古屋国際会議場で開いた。

会員企業などから約270人が参加し、舗装工事の安全対策や最新の技術動向などを学んだ。

開式の挨拶では、岩田裕美道建協中部支部長が、中部地方における舗装事業の現状について「厳しい状況が続いているが、長寿命化やトータルコストの低減を踏まえた発注、工法の検討が進んでいる」と述べ、対応の重要性を強調した。また、4月に開通した新東名高速道路にふれ「日

本の道路技術の優秀さをぜひ体感してほしい」と語った。

講習では、柳武市中部地方整備局道路部道路情報管理官が「舗装事業をめぐる社会・経済情勢と各種制度」、道建協の樋口貞夫氏が「舗装工事の安全対策」と「建設副産物対策」、二木隆氏が「最近の舗装技術の動向」について解説した。

道建協は、今回の講習会からQRコードで入講管理を行い、運営管理の迅速化を図った。



岩田支部長挨拶

アスファルト舗装技術講習会を開催

日本道路建設業協会・愛知県アスファルト合材協会

アスファルト舗装技術に関する講習会が9月4日、名古屋市中区の名古屋ガーデンパレスで開催された。この講習会は日本道路建設業協会中部支部と愛知県アスファルト合材協会の共催で、会員企業各社から約140人が出席して最新の舗装技術を学んだ。

冒頭あいさつに立った愛知県アスファルト合材協会の内藤秀樹技術管理委員会担当理事は、災害時に建設業者が果たすべき役割を説明した上で「プロが正しいことをやらないといけない。本日の講習会で皆さんの能力をさら

に磨いてほしい」と呼びかけた。

講習会では、愛知県環境部資源循環推進課廃棄物監視指導室の飯島啓二指導グループ室長補佐が「産業廃棄物の適正処理」について説明した。

次いで道建協中部支部の井口勝秀企画調査課長が「アスファルト混合物事前審査の現状と課題」について報告し、過去3年間に行われた立会審査・立入調査の結果を踏まえ、▽印字管理▽温度管理▽管理図▽再生骨材の管理—などについて留意事項を説明した。

続いて(株)NIPPO中部支店の和田文明技術グループ課長が「最新の舗装技術」について、大成ロテック(株)技術研究所の紺野路登課長代理が「舗装の延命及び路面性能の回復を目的とした予防的維持工法」について、日本道路(株)生産技術本部技術グループの荒尾慶文サブリーダーが「予防的維持とその適用工法」について解説した。



技術委員会

建設技術フェア2012in中部

「建設技術フェア2012in中部」が10月25日と26日の2日間、中部地方整備局中部技術事務所構内特設会場で開催されました。道路、河川など9分野145の新技术、新工法を展示のほか、防災学習体験、災害対策用機械の展示、学生のための技術相談コーナー、出展技術プレゼンテーション、特別講演会などが行われました。

今年で16回目となる今回のフェアでは特定テーマとして、「地震・津波、豪雨などの災害対策に貢献する技術」と「社会資本の維持管理・長寿命化に貢献する技術」が取り上げられました。

26日の開会式では、主催者を代表して中部地方整備局の梅山和成局長があいさつに立ち、フェアを産・学・官の技術情報交流の場と位置付けたうえで「技術力の向上や技術開発に大きな役割を果たす」と述べられ、出展技術について「現場で積極的に使われてほしい」と期待を示されました。

そのほか、技術フェアに継続出展している企業団体への感謝状を、中部地方整備局の田村秀夫企画部長より贈呈されました。

(一社)日本道路建設業協会は、学生のための技術相談コーナーにおいて、人と人、街と街をつなぐ道路についての疑問・質問や相談に応えました。



建設技術フェア2012in中部開会式



学生のための技術相談コーナー



中部地方整備局 梅山局長挨拶

安全委員会

(一社)日本道路建設業協会中部支部活動の一環として安全委員会は、定期的に発注災害の撲滅を目指します。今回のパトロール箇所は、皆様ご存知のとおり東南海地震被災車道です。中部地方整備局、NEXCO中日本名古屋支社の発注者の方々及び当協会幹に添ったパトロールを行えました。今後も定期パトロールを行い会員相互の安全意識の

パトロール報告

1. パトロール箇所

- 平成24年9月19日(水曜日)
- ・平成23年度 紀勢線道瀬トンネル舗装工事 大成ロテック(株)
- ・平成23年度 紀勢線始神トンネル舗装工事 大有建設(株)

2. 参加者名簿

中部地方整備局

道路部

特定道路工事対策官 前田 和弘
国土交通技官 三宅 恒弘

紀勢国道事務所

副所長 満仲 滋夫
建設監督官 福田 照生

(一社)日本道路建設業協会 中部支部

安全委員長	(株)ガイアートT・K	執行役員常務支店長	民部 順一
安全副委員長	前田道路(株)	取締役常務執行役員支店長	今枝 良三
安全委員	(株)市川工務店	技術顧問	小林 功和
〃	フジタ道路(株)	執行役員支店長	日比野 雄司
〃	常盤工業(株)	執行役員支店長	佐々木 清
〃	(株)竹中道路	支店長	坂井 桂
〃	福田道路(株)	執行役員支店長	戸井 恒夫
〃	地崎道路(株)	支店長	武田 秀行
〃	中部土木(株)	執行役員営業本部道路担当部長	谷口 光八郎
〃	大有建設(株)	取締役建設事業本部長	瀧 茂樹
〃	(株)佐藤渡辺	執行役員支店長	中江 重夫
〃	(株)ガイアートT・K	技術管理部長	大山 泰司
〃	(株)ガイアートT・K	安全部担当部長	遠藤 孝也
支部長	(株)NIPPO	常務執行役員支店長	岩田 裕美
幹事長	鹿島道路(株)	執行役員支店長	川端 清太
建設ｺｰﾎﾞ委員長	大成ロテック(株)	執行役員支社長	今井 久男
環境委員長	東亜道路工業(株)	常務執行役員支社長	青野 俊弘
技術委員長	世紀東急工業(株)	支店長	洲上 彰恭
広報委員長	大林道路(株)	執行役員支店長	齊藤 克巳
技術副委員長	日本道路(株)	執行役員支店長	寺林 裕二



者と合同で会員会社施工中の現場の安全パトロールを行い、安全の啓発に努め労働
 対応も含め近隣住民の方々の命の道となる直轄国道紀勢道とNEXCO中日本紀勢自動
 車の多数の参加をいただき、多忙の中対応された工事担当者の協力もあり点検目標
 の向上、及び対策に貢献いたします。



パトロール報告

1. パトロール箇所

- 平成24年9月20日(木曜日)
- ・紀勢自動車道紀伊長島舗装工事 鹿島道路(株)

2. 参加者名簿

中日本高速道路(株)

名古屋支社

建設事業部	企画統括チーム担当リーダー	吉田 武司
松阪工事事務所	専門役	川辺 稔
	工事長	尾高 寛信
	工務課長	田村 治

(一社)日本道路建設業協会 中部支部

安全委員長	(株)ガイアートT・K	執行役員常務支店長	民部 順一
安全副委員長	前田道路(株)	取締役常務執行役員支店長	今枝 良三
安全委員	(株)市川工務店	技術顧問	小林 功和
"	フジタ道路(株)	執行役員支店長	日比野 雄司
"	常盤工業(株)	執行役員支店長	佐々木 清
"	福田道路(株)	執行役員支店長	戸井 恒夫
"	地崎道路(株)	支店長	武田 秀行
"	中部土木(株)	執行役員営業本部道路担当部長	谷口 光八郎
"	大有建設(株)	取締役建設事業本部長	縹縹 茂樹
"	(株)佐藤渡辺	執行役員支店長	中江 重夫
"	(株)ガイアートT・K	技術管理部長	大山 泰司
"	(株)ガイアートT・K	安全部担当部長	遠藤 孝也
支部長	(株)NIPPO	常務執行役員支店長	岩田 裕美
建設コト委員長	大成ロテック(株)	執行役員支社長	今井 久男
環境委員長	東亜道路工業(株)	常務執行役員支社長	青野 俊弘
技術委員長	世紀東急工業(株)	支店長	洲上 彰恭
広報委員長	大林道路(株)	執行役員支店長	斉藤 克巳
技術副委員長	日本道路(株)	執行役員支店長	寺林 裕二



トンネル Co2濃度測定	
ppm	空気の状態
350 ~ 450	外気レベル
450 ~ 700	許容できるレベル
700 ~ 1000	注意が必要なレベル
1000 ~ 2500	換気を促されるレベル
2500 ~ 5000	健康に影響を及ぼす可能性のあるレベル
5000	高期安全限界温度
20000	呼吸器増加
50000	重症のめえき
100000	10分で意識不明

鹿島道路



道建協の社会・環境貢献活動

AED贈呈式

道建協で2007年に策定した「社会・環境貢献活動指針」に基づいて、本年度も道の駅にAED(自動体外式除細動器)の贈呈をおこなうことになりました。今年度は長野県にある道の駅に贈呈することとなり、中部ブロック「道の駅」連絡会事務局の支援をいただき、贈呈場所は長野県内の下條村の「信濃路下條」と平谷村の「信州平谷」に決定し、9月25日に岩田支部長、道の駅連絡会事務局員、広報委

員と共に道の駅関係者出席のなか贈呈式を行いました。その中でAEDの機器説明と取扱いのデモンストレーションを参加者全員で無事終了しました。

今回で中部支部管内を一巡いたしました。今後もこの活動を継続していき地域貢献の一助になればとおもいます。来年度は初年度に戻り愛知県の予定です。



AED贈呈式

信濃路下條



AED実演講習



AED贈呈式

信州平谷



AED実演講習

中部緊急防災隊

防災隊式典・班長会議

日本道路建設業協会中部支部(岩田裕美支部長)の会員を中心に中部5県の道路事業に携わる有志で結成する「中部緊急防災隊」(岩田本部長)の2012年度防災隊式典が7月24日、名古屋市名東区のサンプラザシーズンズで開かれ、180人が参加し、午前中には各地区の代表者と事務局により班長会議を開催しました。

式典では、開会の辞、隊旗入場に続いて、岩田本部長が訓示に立ち、「今後いかなる災害に対しても、いままで培った経験を生かし対応をしていく。隊員各位にはこれまで以上に緊急連絡体制の強化、資機材の点検・確保などにより、より一層の迅速かつ的確な行動をお願いします」と述べた。

来賓あいさつでは、中部地方整備局の田村秀夫企画部長が、「中部地方では南海トラフを震源とする巨大地震が起こることが想定されている。巨大災害に備えてしっかりと準備を進めることが重要だ」と述べるとともに、昨年、東日本大震災では東北地方整備局が中心となり「くしの歯作戦」を展開したことに触れ、「この作戦は、東北地整と多くの建設業の皆さんが命を懸けて実施した作戦で、多くの人員、車両、物資を運ぶ道路を確保したことが、地元の救援・救助、復興に役立った。中部でも中部版くしの歯作戦の具体化に向けた検討を進めているが、皆さんの協力がなければ何もできない。引き続き協力してほしい」と要請した。

次いで、道建協の渡邊忠泰環境・安全労働委員長があいさつし、昨年9月の台風12号で三重県紀宝町が被災した際、中部緊急防災隊が迅速に対応したことなどを称賛し、「ライフラインの復旧は建設業の力なくしてはあり得ない。今後も地域からますます期待される防災隊になることを祈念する」と語った。その後、民部順一隊長が綱領を朗読した。



岩田本部長挨拶



来賓各位



防災隊式典



班長会議



中部地方整備局 田村企画部長

防災訓練

中部緊急防災隊は9月3日、道建協中部支部会議室に本部を設置し、役員24名が参加して道建協東北支部と連動して支部災害本部設置、緊急支援物資、機材調達の訓練を実施しました。同時に、愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県の各地区責任者に本部長指示を伝達し東海5県下の地区組織16班が参加してそれぞれの班の連絡網、備蓄物資資材の点検確認を行い対策本部に報告する等の災害発生時同様の緊張感を持って防災訓練を行いました。



高山班

中部緊急防災隊、岐阜地区高山班は班員6社で編成されています。防災隊の発足以来、9月の防災の日に高山国道事務所より給水活動要請を受け給水タンクの出動をしています。今年も4日に訓練に参加をし、始めに防災隊の概要説明、そして給水器の試飲を廣松事務所長はじめ40

名の職員の方々に給水器の水を試飲していただき訓練も無事終わりました。とてもおいしい水でした。

最後に、災害もなく穏やかな生活が続くことをただただ祈るばかりです。



アスファルト混合物事前審査の共通試験

事前審査制度では、アスファルト混合物の認定に当たり、各地方のアスファルト混合物事前審査委員会により指定された試験機関(指定検査機関)で実施された混合物の性状試験結果が、合否判定基準に適合していることを要求している。このため、各性状試験の精度・再現性は事前審査制度の信頼性・公平性の根幹をなすものといえる。

そこで指定試験機関を対象とした共通試験が定期的(2年毎)に行われてきた。

(一社)日本道路建設業協会の道路試験所で作成した試料を各指定試験機関に送り試験する方法で、昨年はマーシャル安定度試験と抽出試験を、今年はホイールトラッキング試験を行った。

当中部地区の指定試験機関は、(公財)なごや建設事業

サービス財団名古屋建設技術センター、(財)岐阜県建設研究センター、(公財)三重県建設技術センターの3試験機関であり、各々で昨年、今年と試験が行われた。

今年の試験結果はまだまとまっていないが、昨年の結果を見る限り、3試験機関とも問題は見受けられていない。



会員だより

我が故郷について

私の生まれ育った故郷を紹介したいと思います。生まれ故郷は三重県の伊賀市(旧上野市)という山に囲まれた盆地の町です。伊賀市は三重県の北西部に位置し、北は滋賀県、西は京都府、奈良県と接しており、近畿圏、中部圏の2大都市圏の中間に位置し、それぞれ約1時間程の距離です。

伊賀市は京都、奈良や伊勢を結ぶ大和街道・伊賀街道・初瀬街道が有り、昔から飛鳥、奈良、京都などに隣接する地域として、交通の要衝として栄えてきました。また、江戸時代には藤堂家の城下町や伊勢神宮への参宮者の宿場町としても有名でこのような地理的・歴史的背景から京・大和文化の影響を強く受けながらも独自の文化があり、伊賀忍者や俳聖松尾芭蕉のふるさととして広く知られております。このような歴史・文化的な背景を受け、三重県は東海地域に属しているものの、「伊賀は関西」という考えが古くから定着しております。

我が故郷、伊賀市の名所及び名物等をいくつか紹介させていただきます。



北川ヒューテック(株)中部支店
営業部課長 樽井 万彦



一つ目は、上野城です。上野城は、木造3層の復興天守閣で「白鳳城」と呼ばれる美しい城で、高石垣は黒沢監督の映画「影武者」のロケにも使われ、知る人ぞ知るお城であり、上野城からは上野の町が一望できます。

二つ目は忍者屋敷です。伊賀市は伊賀忍者の発祥の地である為、当時忍者が住んでいた忍者屋敷を再現した建物があります。どんでん返しや抜け道などあっとおどろく秘密の仕掛けがあり、くのいち(かわいい女性?)が実演してくれます。また、忍者の衣装を着て市内を散策したりもできます。

三つ目は、漂泊の詩人として有名な松尾芭蕉の故郷であることから、それに関連した史跡(芭蕉生家・養虫庵・排聖殿等)を楽しめます。

最後に伊賀市に寄られたときは、名物の伊賀牛や豆腐田楽を堪能してください。

また、お土産には忍者の携帯食といわれる「かたやき」をお勧めします。



旅の楽しみ方

今から5年前のゴールデンウィークに一大決心をして、イタリアに13日間の一人旅に行ってきました。航空券やホテルの予約、現地移動の手配もすべて自分で行う、完全な個人旅行です。何もかもお任せのパッケージ旅行と違って、個人旅行では自ら行程を考え、好きな場所を見つけたら何時間でも滞在するといった楽しみ方ができます。

そんな自由な旅でしたが、ある程度の目的を持って大まかな行程を考えていきました。ローマではダン・ブラウンが書いた『天使と悪魔』という小説の舞台となった場所を訪れること。そして、やはり職業柄、「全ての道はローマに通ず」で有名なアッピア街道やクラウディウス水道橋を見に行くこと。フィレンツェではTボーンステーキ、ヴェネツィアでイカ墨スパゲティ、ミラノではミラノ風カツレツを食べ、本場のサッカーであるセリエAを見に行く等々、計画を練っているときから楽しみは膨らみます。

異文化の中に入り、自分が異国人となることも楽しみの一つだと思います。フィレンツェの街でコインランドリーの使い方が判らず困っていた時、マフィアのようなイカツイ兄

さんが親切に使い方を教えてくれたこと。サッカースタジアムで見ず知らずのイタリア人と肩を組んで応援したことなど楽しい経験もありましたが、コロッセオの売店で釣銭をごまかされたり、ヴェネツィアのサンマルコ寺院で人種差別を受けたり日本では経験できないことを体験することができました。

このように、個人旅行にはパッケージツアーには無い楽しさがたくさんあると思います。いろいろな事に縛られ雁字搦めにされている日常から旅立ちましょう。 Bon Voyage!



常盤工業(株)
執行役員支店長 佐々木 清

季節の写真



例年になく、
冷たい冬を
迎えています
がもう少しで梅の花
そして桜が咲く季節が
やって来ます。

退会会員 杉山建設株式会社……………平成24年9月30日

編集後記

「Re Born」これは東日本大震災後の春、国分町に開店した美女6人達の店名です。従業員仲間が世間知らずの若いオーナーから独立し、夢を叶えるために付けた名前です。

この写真は11月7日の技術講演会で飾られた壇上の花をもらって帰ったところ、女房が生け直してくれた姿です。

昨年度まで広報委員の仲間として活動していた元大有建設(株)の増田先輩が、技術講演会前日の6日に亡くなりました。各委員は公私にわたりご指導

いただきました。錦ではマスピーーの愛称で慕われ、あの笑顔に癒されたママは数知れず。

この「支部だより」が発行される新年は、明るい話題に溢れた年にしたいと思います。早く逝きすぎた先輩の思いを叶える為にも、一日も早くRe Bornしないと。

(広報委員・阿部)



(一社)日本道路建設業協会 中部支部「広報委員会」まで
連絡先 ●TEL 052-971-5310 ●FAX 052-971-5375
●ホームページ <http://www.dohkenkyo.or.jp/> ●Eメール chubu@dohkenkyo.or.jp

道路開通

Road opening of traffic

●平成24年9月15日(土)
東海環状自動車道

大垣西IC から 養老JCT



▲開通式



●平成24年10月17日(水)
国道23号豊橋バイパス

前芝IC から 豊川為当IC



▶開通式



一般社団法人
日本道路建設業協会中部支部